令和８年用ぶどう（大粒種）病害虫防除基準

●農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
●農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
●この基準は、令和７年10月１日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）		収穫前使用日数	総使用回数	散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
		露地栽培	雨よけ・無加温ハウス栽培					
①休眠期（ビニール被覆前）	晩腐病 黒とう病	１．デランフロアブル(劇) 200倍（500mℓ）		休眠期	１回	200ℓ	１．越冬病害虫（褐斑病）の発生が多い園では、石灰硫黄合剤20倍（発芽前、－）を散布してもよい。但し、前回散布（①）から７～10日間隔をあけて散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	ブドウトラカミキリ	２．トラサイドＡ乳剤 300倍（333mℓ）	１．トラサイドＡ乳剤 300倍（333mℓ）	発芽前（休眠期）	２回以内			
【特別】発芽直後	フタテンヒメヨコバイ ツマグロアオカスミカメ	１．モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍（50g）	１．モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍（50g）	14日前まで	３回以内	250ℓ	１．フタテンヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメの発生が多い園では、発芽直後に本防除を実施する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
②展葉初期	黒とう病 べと病	１．デランフロアブル(劇) 1,000倍（100mℓ）	１．デランフロアブル(劇) 1,000倍（100mℓ）	落弁期まで（但し、収穫75日前まで）	２回以内	250ℓ	１．中山間地でコガネムシ類が多い園ではアディオン水和剤2,000倍（７日前まで、５回以内）を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
③展葉７～８枚（５月下旬）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）	１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			250ℓ	１．黒とう病・うどんこ病の多発園では、マネージDF4,000倍（21日前まで、３回以内）を加用する。 ２．クビアカスカシバ対策としてスタークル顆粒水溶剤（幼果期まで但し、収穫30日前まで、１回）を水に溶かして主幹部にハケで塗布する。 薬剤：スタークル顆粒水溶剤／使用量：40g／樹／使用方法：本剤１ｇ当たり水１mℓの割合で混合し主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	晩腐病 べと病	２．ペンコゼブフロアブル 1,000倍（100mℓ）	２．ペンコゼブフロアブル 1,000倍（100mℓ）	45日まで	２回以内			
④開花前（６月上旬）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）	１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			300ℓ	１．うどんこ病、黒とう病、灰色かび病が多い園では、スイッチ顆粒水和剤に替えてオーシャインフロアブル 2,000倍（７日前まで、２回以内）を使用してもよい。 ２．雨が多い場合は灰色かび病対策として、次の薬剤のいずれかを単用散布する。 • オンリーワンフロアブル 2,000倍（前日まで、３回以内） • フルピカフロアブル 2,000倍（収穫30日前まで、２回以内） ３．コウモリガの発生が見られる園では、見つけしだい捕殺し、幹周辺の清掃や除草を行う。また、ガットサイドＳ1.5倍（幼虫食入期直前～食入初期、但し収穫21日前まで、２回以内）を主幹部に塗布する。 **クビアカスカシバ対策**：必ず粗皮削りを行ない、６月上旬にパダンSG水溶剤(劇)1,500倍（14日前まで、２回以内）を枝幹部に洗うよう丁寧に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰色かび病 晩腐病	２．スイッチ顆粒水和剤 2,000倍（50g）	２．スイッチ顆粒水和剤 2,000倍（50g）	30日前まで	２回以内			
	べと病	３．ランマンフロアブル 2,000倍（50mℓ）		14日前まで	３回以内			

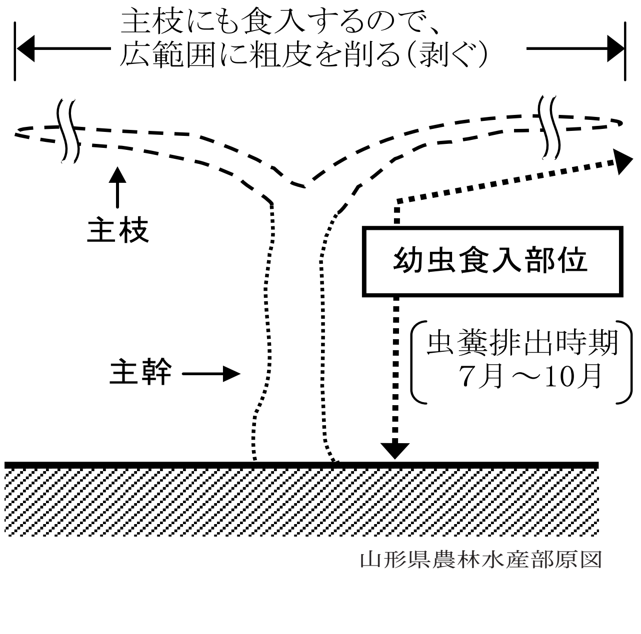
※小粒種（デラウェア）と大粒種で、農薬使用基準が異なる場合があるため、小粒種と大粒種を混植している園地では飛散等に注意する。特に使用時期が異なる農薬（スミチオン水和剤40）を使用する際は注意する。

耕種的防除

全般	１．適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 ２．園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 ３．病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
晩腐病	１．施設栽培を導入し、６月中旬までに被覆を行なう。 ２．休眠期に房の取り残し部分、巻ひげ及び結果母枝の枯死部分などの除去を徹底する。
褐斑病	１．休眠期に園内の清掃（落葉処理）、粗皮削りを行なう。

クビアカスカシバ対策（右図参照）

１．**春季に粗皮削りを必ず行ない、加害を受けた虫糞排出箇所がすぐ分かるようにする。**幼虫食入部位は広範囲に渡るので、粗皮削りは主幹部だけでなく主枝部までていねいに行なう。
２．幼虫による虫糞排出は７月中旬頃から見られ始めるので、園内をよく見回り早期発見に努める。特に被害痕のある樹は繰り返し加害を受けやすいので注意して観察する。
３．幼虫は秋になると被害部直下の比較的浅い（深さ５～10㎝）土中にアーモンド形の土まゆをつくり、その中で越冬するので、被害部の直下１m四方程度を土まゆを露出させるようレーキ等でかくはんする。



山形県農林水産部原図

発　行：ＪＡさがえ西村山・さがえ西村山大粒ぶどう部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）露地栽培	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）雨よけ・無加温ハウス栽培	収穫前使用日数	総使用回数	散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
第1回ジベ処理（満開日〜満開3日後）	シャインマスカット ピオーネ	1．ジベレリン 25ppm 2．フルメット ２〜５ppm	1．ジベレリン 25ppm 2．フルメット ２〜５ppm				1．無核果促進のため、ストマイ液剤20　1,000倍（満開予定日の14日前〜開花始期1回）を果房に散布する。 2．摘芯の代替処理として、フラスター液剤を下記の通り使用してもよい。但し、伸長が旺盛な場合は摘芯を実施する。 品種／時期／希釈倍率／散布量(L/10a)／使用回数 シャインマスカット／展葉７〜11枚目／1,000〜2,000倍／100〜150ℓ／２回以内 ピオーネ／展葉７〜11枚目／500〜800倍／100〜150ℓ／２回以内	散布日　月　日 散布量　ℓ
⑤落花直後	黒とう病 晩腐病 褐斑病 べと病	1．ペンコゼブフロアブル 1,000倍（100mℓ）	1．ペンコゼブフロアブル 1,000倍（100mℓ）	45日前まで	２回以内	200ℓ	1．クビアカスカシバ発生園ではロビンフッド（前日まで、５回以内）を樹幹、樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 2．べと病が多い園では、レーバスフロアブル2,000倍（７日前まで、３回以内）を加用する。 **3．袋かけ前は果粉溶脱しやすいので注意する。** 4．ハダニ類の発生の多い園地ではダニコングフロアブル2,000倍（前日まで、１回）を加用する。	散布日　月　日 散布量　ℓ
	アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ	2．モスピラン顆粒水溶剤㊈ 2,000倍（50g）	2．モスピラン顆粒水溶剤㊈ 2,000倍（50g）	14日前まで	３回以内			
第2回ジベ処理（前回処理10〜15日後）	シャインマスカット ピオーネ	1．ジベレリン 25ppm	1．ジベレリン 25ppm				1．処理後は薬液が残らないようによく振るい落とし、早めに乾く条件の時に処理する。	散布日　月　日 散布量　ℓ
⑥落花15日後	晩腐病 黒とう病 さび病 灰色かび病 うどんこ病 すす点病 褐斑病	1．オンリーワンフロアブル 2,000倍（50mℓ）	1．オンリーワンフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	３回以内	200ℓ	1．べと病が多い園では、ベトファイター顆粒水和剤2,000倍（30日前まで、3回以内）を散布する。 ハダニの多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを単用で散布する。 ・コロマイト水和剤 2,000倍（７日前まで、２回以内） ・ダニオーテフロアブル 2,000倍（前日まで、１回）	散布日　月　日 散布量　ℓ
	アザミウマ類	2．グレーシアフロアブル 4,000倍（25mℓ）	2．グレーシアフロアブル 4,000倍（25mℓ）	７日前まで	２回以内			
⑦落花30日後	べと病 褐斑病 晩腐病	1．ストロビードライフロアブル 2,000倍（50mℓ）	1．ストロビードライフロアブル 2,000倍（50mℓ）	14日前まで	３回以内	200ℓ	1．ストロビードライフロアブルに替えて、ミギワ20フロアブル4,000倍（前日まで、３回以内）を汚染に注意して使用してもよい。 2．べと病が多い園では、ランマンフロアブル2,000倍（14日前まで、３回以内）を散布する。	散布日　月　日 散布量　ℓ
	アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ	2．アドマイヤー顆粒水和剤㊈ 5,000倍（20g）	2．アドマイヤー顆粒水和剤㊈ 5,000倍（20g）	21日前まで	２回以内			
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数、使用回数を厳守する。								
⑧袋掛け後	べと病	1．ＩＣボルドー48Q 50倍（2kg）		―	―	250ℓ	1．ＩＣボルドー48Ｑに替えてＺボルドー500倍（―、―）、又は、コサイド3000、2,000倍（―、―）を使用してもよい。但し、薬害軽減のためクレフノン100倍（―、―）を必ず加用する。 2．露地栽培で袋をかけない品種ではICボルドー48Qに替えて、オンリーワンフロアブル2,000倍（前日まで、３回以内）を使用してもよい。 **3．クビアカスカシバの多い園では、パダンＳＧ水溶剤㊈1,500倍（14日前まで、２回以内）を枝幹部に十分かかるよう丁寧に散布する。但し、果粉溶脱の恐れがあるので袋かけ後に散布する。** 4．べと病が多い場合は、レーバスフロアブル2,000倍（7日前まで、3回以内）を散布する。但し、連用は避ける。	散布日　月　日 散布量　ℓ
	チャノキイロアザミウマ コガネムシ類 カメムシ類 クビアカスカシバ	2．テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）	1．テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）	前日まで	２回以内			
⑨8月中下旬	べと病	1．ＩＣボルドー48Q 50倍（2kg）		―	―	250ℓ	1．ＩＣボルドー48Ｑに替えてクプロシールド1,000倍（発病前〜発病直後、―）を散布してもよい。	散布日　月　日 散布量　ℓ
⑩収穫後	べと病 さび病	1．ＩＣボルドー66Ｄ 50倍（2kg）	1．ＩＣボルドー66Ｄ 50倍（2kg）	発病前〜発病直後	―	300ℓ		散布日　月　日 散布量　ℓ
	フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトラカミキリ	2．スミチオン水和剤40 1,000倍（100g）	2．スミチオン水和剤40 1,000倍（100g）	21日前まで	２回以内			

ストレプトマイシン液剤（ストマイ液剤20、アグレプト液剤）

薬剤名	目的	処理時期	濃度
ストマイ液剤20	無種子化	満開予定14日前〜開花始期	1,000倍
アグレプト液剤	無種子化	満開予定14日前〜開花始期	1,000倍

フルメット

品種	目的	処理時期	濃度	水量
シャインマスカット	着粒安定	1回目ジベレリン処理時に加用	２〜５ppm	2Lに 4〜10ml

ジベレリン

品種	目的	処理時期	濃度	水量
シャインマスカット ピオーネ	無種子化	1回目：満開時〜満開3日後	25ppm	スティック（50mg含有）の場合：2Lに1包 スティック（200mg含有）の場合：8Lに1包 錠剤（25mg含有）の場合：1Lに1錠 錠剤（200mg含有）の場合：8Lに1錠
シャインマスカット ピオーネ	果粒肥大促進	2回目：満開10〜15日後	25ppm	